

八幡平市第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についての意見募集結果

○意見募集の概要

- ・募集期間 令和 2 年 2 月 21 日（金）～令和 2 年 3 月 11 日（水）
- ・意見件数 5 件

○意見の概要と市の見解

【第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についての意見】

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	21 頁	<p>地域おこし協力隊の活動が見えてきたが、宮城県気仙沼市唐桑の若者の移住についてご存知か。</p> <p>震災ボランティアがきっかけの町おこし活動が中心だが地元の農林業の会社に就職した女性で、地域の方との交流のお礼に、車のない人達の病院、買い物に同行しているという方がいる。</p>	<p>宮城県気仙沼市の事例は存じ上げておりませんが、全国には移住者それぞれが地域と多様な関わり方をしている事例があると承知しております。</p> <p>全国の様々な事例を研究しながら、当市におきましても地域おこし協力隊をはじめ市外からの人材を受入れられるよう努めてまいります。</p>
2	26 頁	<p>インバウンドで、宿泊従事者、地元民が積極的に声を海外からの旅行者にかけられるような、市全体での体制づくりが必要ではないか。</p>	<p>外国人観光客（インバウンド）は年々増加している現状があります。（平成 29 年度 71,166 人、30 年度 81,366 人、元年度（12 月まで）96,071 人）インバウンド受入事業者の案内等の多言語化など対応のほか、広く参加可能なセミナーなども実施していますが、事業者の方やガイドの方などの参加となっている現状もございます。</p> <p>まずは、これまで実施したインバウンド受入のセミナーなども、広く市民の方々が参加しやすい内容や案内などを検討し、地域の人たちが、八幡平市を訪れる外国人観光客にどう接していくか、気持ちよく過ごしていただけるかなどを考える機会づくりを進めてまいります。</p>
3	26 頁	<p>観光滞在日数の長期化を図る必要。DMOがインバウンドで県外のDMOと連携協議会を開催した。まずはこちらから商品（観光スポット）化を図るのが良いのではないか。</p>	<p>より多くの長期滞在・宿泊いただくことで、旅行者の消費額の増も期待できます。そのためには八幡平を起点とした広域での観光ルートを造成していくことも重要となります。（株）八幡平 DMO を含めて、各 DMO との連携により、広域観光の商品造成を進めてまいります。</p>

4	26 頁	<p>観光地での看板、記念碑等の多言語看板設置を計画とは関係なく進めるべき。ビジターセンター内に安代方面、七時雨方面、名所（特に市博物館、不動の滝、安比スキー場）等への案内板の設置は必要と思う。</p>	<p>看板やパンフレットなどの多言語案内は、外国人観光客受入の必須事項のひとつです。これまで、多言語（英語・繁体字）ホームページの作成や、飲食店の多言語メニュー作りなどを行ってまいりました。また、国立公園内の看板なども国・県とも連携し多言語化を進めています。</p> <p>看板の整備には相応の予算が必要となりますので、既存看板に QR コードを加えてスマートフォンから多言語の説明を確認できるということなども含めて、外国人観光客へのより良い案内の在り方を検討してまいります。</p>
5	27 頁	<p>スポーツでの人の交流拠点だけでなく、芸術、文化での拠点も必要。今後、空き校舎が出てくるとすれば、合宿施設として市民との交流の場にしてはどうか。</p>	<p>スポーツに限らない交流拠点につきましては、既存施設の有効活用のご提案を含め、今後の参考とさせていただきます。</p>